



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 石光商事株式会社

コード番号 2750

URL https://www.ishimitsu.co.jp

代表者(役職名) 代表取締役社長

(氏名) 石脇 智広

問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部門長

(氏名) 吉川 宗利 (TEL) 078-861-7791(代表)

四半期報告書提出予定日 2021年2月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	30,062	1.9	632	70.6	554	81.6	341	64.6
2020年3月期第3四半期	29,498	△1.2	370	△27.5	305	△41.4	207	△43.5

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 423百万円(123.6%) 2020年3月期第3四半期 189百万円(△52.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	44.35	—
2020年3月期第3四半期	26.95	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	28,719	12,104	30.7
2020年3月期	26,235	11,881	31.8

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 8,830百万円 2020年3月期 8,351百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2021年3月期	—	0.00	—		
2021年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,461	6.0	745	102.0	664	128.6	428	330.5	55.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	8,000,000株	2020年3月期	8,000,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	291,991株	2020年3月期	291,991株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	7,708,009株	2020年3月期3Q	7,708,009株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(追加情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの影響を受け続けており、緊急事態宣言の発出と解除の後、経済活動は緩やかに再開されましたが、第二波、第三波と見られる新型コロナウイルスの流行の影響により、依然として停滞感の強い状況が続いております。

海外に関しても概ね同様の状況で、感染が最初に広まった中国は世界に先駆けて経済活動を再開し、昨年、主要国の中で唯一、プラスの経済成長率を実現しておりますが、新型コロナウイルスの感染拡大が続く米国や欧州諸国は国によって程度の差はあれ依然回復がはかばかしくない状況が続いております。

当社グループの主力マーケットである食品業界におきましても、新型コロナウイルスの影響は大きく、特に外食産業におきましては、様々な感染防止措置により客足が伸びず、厳しい経営環境が続いております。

当社グループの業績に影響を与える為替相場におきましては、期初1ドルあたり107～108円近辺で始まり、100円台半ばの比較的狭いレンジ内でやや円高傾向に推移した後、12月末では103円台となりました。

コーヒー業界におきましては、コーヒー相場は期初の1ポンドあたり119.55セントからスタートし、緩やかに相場が下落した後、生産国における新型コロナウイルス感染拡大による供給不安や認証在庫の減少等を材料視した投機筋が市場で買い上げ一時は134セント台まで上昇しました。その後、ブラジルの降雨情報を受け相場は緩み、一時102セント台をつけるまで下落しましたが、その後11月半ば頃から再び買いが優勢となり、12月末では128.25セントとなりました。

このような状況のなか、当社グループは、外食関連が新型コロナウイルスの影響を余儀なくされており、収益確保を図るため、中食等影響を受けていない分野における営業強化と費用節減により挽回に努めております。さらに連結子会社となった東京アライドコーヒーロースターズ株式会社との統合効果を高めていくとともに、デジタル変革の成果を先駆的に取り入れていくべく検討を進め、中期経営計画「i(アイ)プロジェクト」に掲げている社会的課題の解決＝社会的価値の追求にも継続して取り組んでおります。

その結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は30,062百万円(前年同期比1.9%増加)、売上総利益は4,657百万円(前年同期比7.6%増加)、営業利益は632百万円(前年同期比70.6%増加)、経常利益は554百万円(前年同期比81.6%増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益は341百万円(前年同期比64.6%増加)となりました。

なお、上記の数字には、前連結会計年度末近くに連結子会社化しました東京アライドコーヒーロースターズ株式会社の業績が、決算期のズレを踏まえた企業結合上、6か月分(売上高2,604百万円)含まれております。

各部門別の状況は次のとおりであります。

#### ① コーヒー・飲料部門

##### 1) コーヒー飲料原料

コーヒー生豆は、新型コロナウイルス感染拡大により、家庭用商品の需要が高まり、家庭用ルートを持つ顧客や、自家焙煎店に原料販売をしている連結子会社のユーエスフーズ株式会社は引き続き販売量が増加いたしました。しかしながら、外出自粛の影響により、喫茶店やコーヒーチェーン店、観光業向け等で業務用の販売量が減少しております。また、飲料事業についても、業務用の販売量が減少いたしました。

なお、連結子会社となった東京アライドコーヒーロースターズ株式会社への原料売上高が連結消去処理により、前年同期に比べて減少しております(同社の製品販売実績はコーヒー飲料製品で計上しております)。

その結果、コーヒー飲料原料の売上高は前年同期比8.7%減少いたしました。

2) コーヒー飲料製品

レギュラーコーヒーは、緊急事態宣言発出に伴う外出自粛により家庭用商品の需要が高まり、コーヒーバッグにおいては、増産体制を整えたことで、主力顧客の需要に応える事が可能となり販売量が大きく増加いたしました。

また、連結子会社となった東京アライドコーヒーロースターズ株式会社の売上高(2,604百万円)が計上され、前年同期比の主な増加要因となりました。

その結果、コーヒー飲料製品の売上高は前年同期比66.9%増加いたしました。

これらの理由により、コーヒー・飲料部門の売上高は11,117百万円と前年同期比22.5%の増加となり、売上総利益は1,983百万円と前年同期比27.2%の増加となりました。

② 食品部門

1) 加工食品

ドライ商品は、給食ルートや製菓ルートでダイスカットフルーツ商品の販売が増加いたしました。新型コロナウイルスの影響に伴う外食の落ち込みにより、フルーツ缶詰、野菜缶詰及びイタリアン食品で全般的に大きくマイナスとなり、売上高は前年同期比16.5%減少いたしました。

フローズン商品は、外食の落ち込みのカバーとして量販店向けに魚フライ商品の売込み強化をした結果、販売が増加いたしました。しかしながら、飲料メーカー向け原料、ブラッドオレンジジュース、チーズの落ち込みにより、売上高は前年同期比14.3%減少いたしました。

メーカー商品は、新型コロナウイルスによる外食の自粛により、売上高は前年同期比29.5%減少いたしました。

その結果、加工食品の売上高は前年同期比23.2%減少いたしました。

2) 水産及び調理冷蔵

水産は回転寿司チェーン店での新規メニューが採用され、また量販店向けエビ等の販売が増加いたしました。しかしながら、新型コロナウイルスによる外食の落ち込みにより、外食関連や観光に依存した食品問屋向け伸ばしエビの販売が大きく減少いたしました。

調理冷蔵は、外食向け商品は大きく落ち込みましたが、量販店との鶏肉加工品・原料の開発が順調に進み販売拡大につながりました。加えて、量販店向け合鴨加工品の販売が増加いたしました。

その結果、水産及び調理冷蔵の売上高は前年同期比5.3%減少いたしました。

3) 農産

生鮮野菜は、新型コロナウイルスの影響等により外食向け玉葱、牛蒡の販売が減少いたしました。カット野菜で順調に販売を拡大することができました。

農産加工品は、梅加工品において新型コロナウイルスの影響等による商品開発の遅れもあり大きく販売が減少いたしました。レトルト食品メーカー向け筍や大手メーカー向け香辛料の販売が順調に拡大いたしました。

その結果、農産の売上高は前年同期比4.0%増加いたしました。

これらの理由により食品部門の売上高は16,109百万円と前年同期比10.0%の減少となり、売上総利益は2,247百万円と前年同期比6.0%の減少となりました。

③ 海外事業部門

業務用食材を主力商品とする輸出先については新型コロナウイルスの影響を大きく受けましたが、一方で増加している小売店で販売する家庭用日本食品への需要に対し、新商品含め商品提案をきめ細かく行い、営業推進に努めました。さらに従前より戦略的に取り組んでいる当社独自の企画・開発商品が実を結び始め、販売網も欧州に広がりました。また新型コロナウイルスからの立ち直りが比較的早かった国の海外子会社が利益面で下支えしました。

その結果、海外事業部門の売上高は2,835百万円と前年同期比12.5%の増加となり、売上総利益は426百万円と前年同期比12.2%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,483百万円増加の28,719百万円となりました。その主な内容は、期末日休日要因の影響に伴う現預金1,330百万円及び売上債権2,163百万円の増加と棚卸資産849百万円の減少です。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,260百万円増加の16,614百万円となりました。その主な内容は、期末日休日要因の影響に伴う仕入債務1,770百万円及び借入金275百万円の増加です。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ223百万円増加の12,104百万円となりました。その主な内容は、利益剰余金264百万円及び東京アライドコーヒーロースターズ株式会社の株式の追加取得による資本剰余金196百万円の増加と同社の非支配株主持分320百万円の減少です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想及び配当予想につきましては、2021年2月5日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,724,378	5,055,221
受取手形及び売掛金	8,363,871	10,526,906
商品及び製品	4,131,660	4,098,733
未着商品	899,772	576,477
仕掛品	47,242	42,010
原材料及び貯蔵品	1,235,892	747,611
その他	475,220	340,348
貸倒引当金	△24,135	△28,046
流動資産合計	18,853,903	21,359,262
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,640,545	2,640,545
その他(純額)	3,486,440	3,392,616
有形固定資産合計	6,126,986	6,033,162
無形固定資産		
	216,613	175,975
投資その他の資産		
投資有価証券	569,925	707,794
その他	588,241	532,632
貸倒引当金	△126,780	△95,344
投資その他の資産合計	1,031,386	1,145,082
固定資産合計	7,374,986	7,354,220
繰延資産		
	6,258	5,524
資産合計	26,235,148	28,719,007

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,729,774	5,500,418
短期借入金	2,720,000	2,750,000
1年内償還予定の社債	56,000	56,000
1年内返済予定の長期借入金	1,483,156	1,500,576
未払法人税等	37,338	111,105
賞与引当金	226,528	150,347
その他	1,641,569	1,916,820
流動負債合計	9,894,367	11,985,268
固定負債		
社債	316,000	288,000
長期借入金	2,750,864	2,979,442
退職給付に係る負債	346,234	357,370
役員退職慰労引当金	2,591	4,941
資産除去債務	127,992	128,251
その他	915,833	871,285
固定負債合計	4,459,516	4,629,291
負債合計	14,353,883	16,614,559
純資産の部		
株主資本		
資本金	623,200	623,200
資本剰余金	357,466	554,423
利益剰余金	7,366,017	7,630,822
自己株式	△107,540	△107,540
株主資本合計	8,239,143	8,700,906
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	79,761	159,645
繰延ヘッジ損益	10,804	△43,331
為替換算調整勘定	21,679	13,442
その他の包括利益累計額合計	112,245	129,756
非支配株主持分	3,529,875	3,273,785
純資産合計	11,881,264	12,104,448
負債純資産合計	26,235,148	28,719,007



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	29,498,001	30,062,751
売上原価	25,168,803	25,405,193
売上総利益	4,329,197	4,657,557
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	787,080	819,591
貸倒引当金繰入額	66,430	△17,825
報酬及び給料手当	1,115,413	1,263,991
賞与引当金繰入額	92,615	97,422
その他	1,897,167	1,862,269
販売費及び一般管理費合計	3,958,707	4,025,448
営業利益	370,490	632,108
営業外収益		
受取利息	4,696	5,438
受取配当金	5,944	15,635
受取賃貸料	14,934	13,230
受取補償金	—	16,169
その他	38,917	26,831
営業外収益合計	64,492	77,304
営業外費用		
支払利息	54,778	54,563
持分法による投資損失	51,727	88,168
為替差損	9,479	3,646
その他	13,809	8,935
営業外費用合計	129,795	155,314
経常利益	305,188	554,099
特別利益		
固定資産売却益	4,987	308
特別利益合計	4,987	308
特別損失		
固定資産除却損	0	1,314
特別損失合計	0	1,314
税金等調整前四半期純利益	310,175	553,093
法人税、住民税及び事業税	85,345	159,747
法人税等調整額	30,140	21,449
法人税等合計	115,486	181,197
四半期純利益	194,689	371,896
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△13,055	30,011
親会社株主に帰属する四半期純利益	207,744	341,884

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	194,689	371,896
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13,472	114,762
繰延ヘッジ損益	22,821	△54,135
為替換算調整勘定	△16,152	△8,238
持分法適用会社に対する持分相当額	△25,512	△900
その他の包括利益合計	△5,370	51,487
四半期包括利益	189,318	423,383
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	206,377	359,395
非支配株主に係る四半期包括利益	△17,058	63,988

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は2020年4月7日付で、連結子会社東京アライドコーヒーロースターズ株式会社の株式を追加取得いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が196,957千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が554,423千円となっております。

(追加情報)

新型コロナウイルスの感染拡大とこれに伴う経済活動の停滞は、少なくとも2022年3月期までその影響が継続し、当社グループの業績に影響があるものと考えております。

このため、繰延税金資産の計上にあたっては、四半期連結財務諸表作成時点で入手可能な情報に基づき、一定の仮定を置き将来の課税所得の見積りと回収可能性の判断を行っております。

なお、当該仮定は不確実性が高く、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が今後長期化した場合や深刻化した場合には、当社グループの業績もこれに伴い変動し繰延税金資産が減少する可能性があります。